京　新　聞　『東京新聞』2000年5月17日　(第3種郵便物認可)

私人李登輝 消えぬ影響力

台北の総統府で11日、国会議員から「ミスターデモクラシー」と名付けられた自身の胸像を贈られ、ご満悦の李登輝総統（左）＝AP

台湾 20日に陳新政権

台湾の李登輝総統(七七)は二十日、陳水扁新総統(四九)に政権を引き継ぎ、十二年にわたる治世にピリオドを打つ。台湾の民主化、目覚ましい経済発展などに大きな役割を果たし、台湾住民の七割以上が高く評価する「李登輝時代」。今後は農業経済学の研究やボランティア活動に打ち込む意向といわれるが、「偉大な指導者」として内政に影響力を持ち続けるとの見方は強い。大の親日家で私人の立場での訪日を希望しており、日中関係にも余波が及ぶ可能性も高い。引退してもまだまだ目が離せない李総統の行く末を探ると――。

（台北・白石徹）

李総統はすでに総統府を出て、台北市内から車で一時間ほどの桃園県の別荘に転居。三月末に国民党主席を辞任しており、総統を引退すれば官職からすべて身を引くことになる。

今月十四日、この別荘に

私人李登輝　消えぬ影響力　台湾20日に陳新政権　東京新聞-2000.05.17

■ 李登輝総統の歩み ■

1923年 1月15日	日本統治下の台湾・台北県に生まれる
43年～	京都帝大農学部に学ぶ
46年	終戦で台湾へ戻る
49年	台湾大学農業経済学部卒
56年～	台湾大助教授
68年	米コーネル大学で農業経済学博士号取得
78年～	台北市長
79年～	国民党中央常務委員
81年～	台湾省政府主席
84年5月	副総統に就任
88年1月	蔣経国総統の死去に伴い、副総統から総統へ昇格
88年7月	国民党主席も兼任
89年5月	野党設立を解禁し、民進党を合法化
92年11月	大陸に近い金門、馬祖両島の戒厳令を解除
12月	初の全面改選による立法院（国会に相当）選挙を実施。民進党が躍進
96年3月	初の総統直接選挙で総統に再選
99年7月	独メディアの取材に対し、中台関係を「特殊な国と国の関係」と述べ、「二国論」を提起
2000年 3月18日	2回目の総統直接選で陳水扁氏が当選
3月24日	国民党主席を辞任
5月20日	総統を退任、陳氏へバトンタッチ

台北市長選『冗談』も反響

陳水扁新総統を支える民進党の立法委員（国会議員）十数人が訪れた。面会した沈富雄議員らによれば、李総統と議員の間で次のようなやり取りがあった。

李総統「（沈議員に対し）もし、あなたが台北市長に出馬するなら私は必ず応援するよ」

議員「そうすると総統は国民党から除籍ですね」

李総統「冗談だよ、ほんの冗談」

李総統の発言の真意をめぐり、台湾メディアは大騒ぎ。政権の座を降りた国民党にとって台北市長は最後の砦（とりで）だ。現職の馬英九市長は九八年、李総統の応援を受けて当選できたのだが、最近は関係が悪化。「国民党のプリンス」といわれる馬市長への警告であり、ひいては反李登輝派へのメッセージとの指摘も。いまだ李総統の「冗談」が大きな反響を呼ぶ背景には引退後も無視できない政治力と世論の支持がある。

核心

『訪日希望』中国が警戒

「李総統は私人になろうと影響力を持ち続ける。民主政治や外交、経済面でも李登輝路線は生き続け、国民党であろうと民進党であろうと、尊重しないわけにはいかない。民衆に対しても影響力を保つ」。台湾大学政治学科の楊永明助教授は断言した。

李総統の側近で、総統府顧問の鍾振宏氏も「中華世界で民主的な〝無血革命〟は史上初であり、民主制度を確立した李総統には不滅の功績がある。総統職を離れても影響力は残るだろう」と話す。

当面、李総統は著作に専念する。農業経済学者だった李登輝教授に政治家への道を開いた蔣経国元総統を振り返る本を三カ月以内に出版。また「中国人の歴史観」という一書も近く上梓（じょうし）する。対外的には民間のシンクタンク・台湾総合研究院の名誉会長の肩書をもつ見込みだ。

新総統に就任する陳水扁氏は当選後の三月三十日に李総統を訪ね、政権移譲に向けて全面的な協力を求めた。その際、陳氏は「総統は退任後の日本訪問を希望しているが、台湾の平和の使者として全世界を回ってほしい」と要望。李総統は日本と新総統、さらには台湾との橋渡し役になることに意欲を見せており、今後の活動が注目される。

日本では今年十月末に開催される民間の国際会議に、私人の李登輝氏を招く計画がある。中国の朱鎔基首相の十月訪日が決まり、今回は見送られる可能性が高くなったが、いずれ訪日問題が再燃するのは必至だ。李総統を「台湾独立派の親玉」とみる中国は、退任後の影響力も極度に警戒。日本政府に「一つの中国」の原則を突きつけ、李氏訪日に断固反対する構えだ。

李総統と親しい鍾振宏氏は「総統には日本のためにも訪日したいとの強い気持ちがある。中国の圧力を受け続ける日本に、確固とした態度を示してほしいとの願いからだ。何もそこまで日本のことを考えなくても、と思ってしまう」。

李総統は私人に戻っても台湾だけでなく、東アジアのキーパーソンであり続けるのは間違いなさそうだ。

民主的国家になった 李総統、お別れあいさつ

【台北16日共同】退任する台湾の李登輝総統は十六日、行政院（内閣）主催のお別れティーパーティーで講演し「中華民国（台湾）は自由で民主的な現代国家になったと誇りを持って言える」と強調した。

李氏は、十二年の在任期間に政治、経済、国防、（中台）両岸関係など各方面で顕著な成果を上げ、中華民国始まって以来、最も進歩的で繁栄した時代を切り開いたと実績を誇示。さらに、政治改革を通じて主権在民という建国の理想を実現し、国際社会から一致した評価を受け、発展途上国が参考にできる「成功の模範」となったと自賛した。

台湾の有力紙、聯合報は十六日、十二年の李登輝時代を総括する世論調査の結果を伝えた。住民の七四％が「満足」と答える高い評価で、「不満足」は二一％にとどまった。台湾住民の大多数が李総統を支持し、引退後の活動にも期待を寄せていることの裏付けだ。

たが、今回は一・一二倍と再び逆転した。

ニューヨークで一ドルの商品が東京ではいくらで買えるかを表す購買力平価は百三十七円で、前年の百四十一円から四円改善。経企庁は「円高要因を除けば価格差は改善し、食料や家賃など貿易と関係が薄い商品とサービスの価格が下がりにくい状態が続いているようだ」（物価局）とみている。

毎日新聞社人事（6月27日）代表取締役専務（専務・関連会社担当・社長室長）管理部門統括・資材担当・不動産本部長石黒克己▽専務・東京本社代表（常務・広告担当）石井国範▽専務・大阪本社代表（常務・主筆・英文毎日担当・学生新聞担当）木戸湊▽常務・関連会社担当（取締役）経理担当・経理本部長稲山輝機▽常務・主筆・電波・メディア担当・英文毎日担当・学生新聞担当（取締役・東京本社副代表・東京本社編集局長）北村正任▽取締役・労務・総務担当・広報担当（役員待遇・販売戦略本部長）大森邦彦▽取締役・西部本社代表・福岡本部長（大阪本社編集局長）橋本光司▽取締役（役員待遇）東京本社副代表・中部代表長崎和夫▽取締役・販売担当＝大阪・西部（役員待遇）大阪本社販売局長出口正作▽取締役（役員待遇）事業担当・東京本社事業本部長中島健一郎

▽取締役・東京本社編集局長（人事・総務本部長）橋本達明▽取締役（役員待遇）出版担当・出版局長山本進▽取締役・広告担当（東京本社広告局長）大沼孝司▽取締役　東日印刷社長国保仁▽監査役（役員待遇）水野弘敏▽相談役（会長）小池唯夫、（副社長・大阪本社代表）迫田太▽退任　代表取締役専務白根邦男、常務上西朗夫、田中謙治、取締役竹内宏二、橋本靖正、木村栄作、監査役森田明彦▽役員待遇　東京本社販